

**三条市子ども・若者総合サポートシステム**  
**平成 29 年度活動実績・平成 30 年度活動計画**  
**【障がい支援部会】**

《平成 29 年度活動実績》

1 障がい支援部会 対象者の把握状況と対応

(1) 把握人数（平成 30 年 3 月末現在）

724 人（再：就学後 508 人 就学前 216 人）

(2) 「個人情報の取扱いに関する同意書」提出人数

55 人

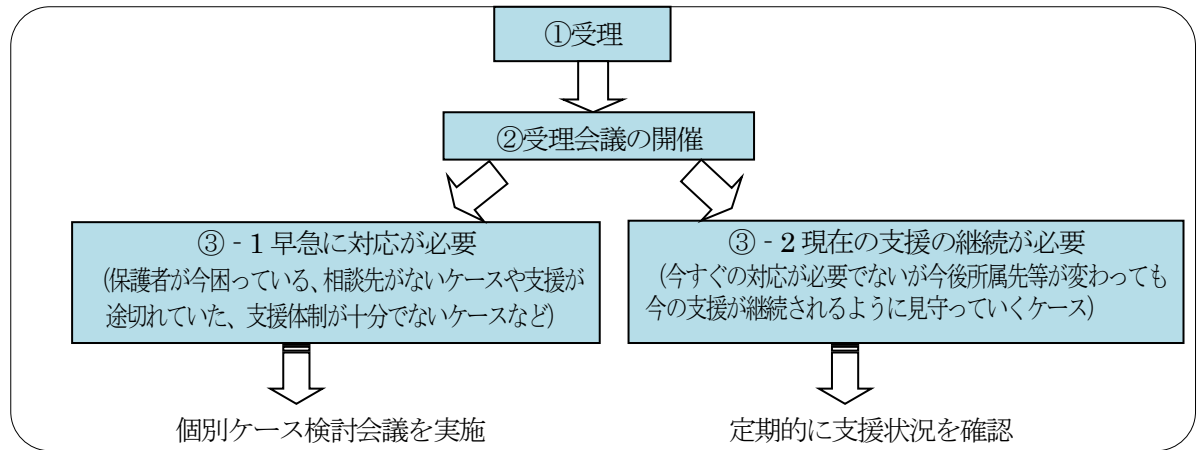
(参考 1) 平成 30 年度特別支援学級に在籍する児童生徒数及び学級数

学級種別	市内小学校		市内中学校		計	
	学級数	人数	学級数	人数	学級数	人数
知的障害学級	24	123	12	41	34	171
自閉・情緒障害学級	27	136	11	39	38	180
その他〈肢体不自由・病虚弱〉	4	7	1	3	5	8
合 計	55	266	24	83	79	359

(参考 2) 平成 29 年度通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒数

問題項目	市内小学		市内中学		計		国の平均
	人	%	人	%	人	%	
学習面か行動面で著しい困難を示す	414	9.0	93	3.8	507	7.2	6.5
学習面で著しい困難を示す	244	5.3	37	1.5	281	4.0	4.5
行動面で著しい困難を示す	281	6.1	79	3.3	360	5.1	3.6
学習面と行動面ともに著しい困難を示す	111	2.4	23	1.0	134	1.9	1.6

(3) 「個人情報の取扱いに関する同意書」受理後の対応



※同意が無い「障がい」把握者への支援

乳幼児の場合 → 保健師や保育所（園）、幼稚園の保育士等の支援

小中学生の場合 → 学校での通常支援及び、通級指導教室（裏館小学校・長沢小学校）や市が委嘱した特別支援学校職員による専門指導員の巡回支援等

2 障がい支援部会 会議開催状況

会議名	回	月 日	場 所	内 容 等	参加機関数
実務者会議	第1回	7月5日	三条市役所 栄 庁 舎	障がい支援に向けて、保護者支援のあり方について検討	16機関

3 研修会・講演会

題名	月 日	場 所	内 容 等	参加人数
発達応援セミナー (発達応援講演会)	第1回 7月28日	総合福祉センター	演 題：発達が気になる子の「いいところ」応援計画 ～支援の鍵はリフレーミング～ 講 師：星槎大学大学院 准教授 教授 阿部 俊彦 氏 対象者：小・中・特別支援学校教職員、幼稚園・保育所（園）職員、行政関係者	182人
	第2回 11月16日	三条市役所 栄庁舎	演 題：「発達障がいかもしれない 葛藤する日々の振りかえりから」～当事者の心の悩みを理解しよう、寄り添うために～ 講 師：新潟お笑い集団NAMARA 代表 江口 歩 氏、金子 ボボ 氏 対象者：市民	80人

専 門 研 修 会	1 月 15 日	三条市役所 栄庁舎	講 義：「出雲崎高等学校 特別支援教育の取り組み ～高等学校における特別支援教育の実態 ～」 講師：新潟県出雲崎高等学校 支援教育部 特別支援教育コーディネーター 須藤 光様 対象者：小中学校教職員、市内高等学校、保育園（所）・ 幼稚園職員、支援機関職員等	40 人
--------------	----------	--------------	--	------

#### 4 成果、課題等

成果	課題等
<p>専門研修会では、高等学校での特別支援教育の実態について学んだ。義務教育後の現状を知ることで、保護者や児童・生徒に対し小学校や中学校が将来を見据えた指導・支援を行っていく上で参考となるものであった。</p> <p>発達応援セミナーでは、リフレーミングを中心に障がい特性の捉え方、障がいから生ずる困難を克服するための指導や支援の方法、周囲の接し方など、支援者のあり方や方法を学ぶ機会となり、今後の支援の参考になるものであった。</p>	<p>学習上、生活上の困難を克服するための知識、技能を高める自立活動の視点での指導、支援のあり方を支援者が研修し、特別支援教育に関する専門性を高める必要がある。</p> <p>就労までの切れ目のない一貫した支援体制を構築していくために、特別な配慮を要する生徒に対し、各高等学校での対応等義務教育後の支援の実態把握と課題について整理し、対応を協議していく必要がある。</p>

### 《平成 30 年度活動計画》

#### 1 会議開催予定

会議名	回	月	場 所	内 容 等
実務者会議	第 1 回	7 月 3 日	三条市役所 栄庁舎	発達障がい支援体制について（仮）
個別ケース 検討会議		随時		支援体制の検討が必要なケースについて関係者 で検討を行う。

#### 2 周知活動

##### (1) 実務者への周知

- ア 市内保育所等と小中学校等の実務者を対象に、子ども・若者総合サポートシステムの運用及びすまいるファイル活用について周知

周知方法等	対象者	実施月
保育所（園）長会議	公立保育所所長及び私立保育園長	4月
小中学校長会	小中学校校長	6月
小中一貫教育授業づくり研修① ～学習問題のある授業～	市内転入2年以内の教職員	5月
特別な教育課程に基づく授業づくり研修	市内教職員、市立学校特別支援教育コーディネータ、市立学校特別支援学級担当教職員	6月
合理的配慮研修 (インクルーシブ教育システム研修)	市内教職員	7月
小中一貫教育授業づくり研修② ～小中一貫教育カリキュラムの活用～	市内教職員（乗り入れ・共同授業予定者）	10月
通常学級における、特別な配慮に基づく 授業づくり研修会	市内教職員	11月

イ 市内や近隣高等学校に対し、子ども・若者総合サポートシステムの運用及びすまいるファイル活用について周知

(2) 保護者への周知

ア 市内の保育所等、小中学校等に所属する子どもの保護者に対し、子ども・若者総合サポートシステムについて周知

イ 障害福祉サービスの利用や保育所等での発達支援または学校での特別支援教育を受けている子どもの保護者へすまいるファイルの活用の周知

### 3 研修会・講演会

題名	月日	場所	内容等	参加 予定人数
発達応援 セミナー (発達応援 講演会)	第1回	7月1日	総合福祉 センター 演 題：「もしかして…発達障がい？」 早期の気づきと支援 講 師：東條 恵 氏 (医療法人社団こども輝き 発達クリニック「ばすてる」院長) 対象者：市民	150人
	第2回	7月30日	下田体育館 演 題：感情をコントロールする力を育てるか かわり (仮) 講 師：大河原 美以 氏 (東京学芸大学 教授) 対象者：小・中・特別支援学校教職員 幼稚園・保育所(園)職員	380人
専門研修会	未定	未定	就学後の障がい児支援に関するテーマ 対象者：実務者等	50人

